

令和3年度長浜米原しょうがい者自立支援協議会開催指標

①全体会バージョン

- ▶ コロナとのつきあい方滋賀プランを基に、全体会の開催指標とする。
- ▶ 開催7日前時点でのステージで判断する。(当日までにステージが上がるのであればその時に※判断する)
- ▶ 日常から「滋賀らしい生活三方よし」を意識して生活。
- ▶ 全体会開催方式は、集会とWebの併用型の開催とする。

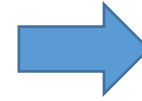
※判断
会長・副会長・事務局で相談し決定

- ・いずれの場合も個人での感染症対策は確実に実施
- ・手指消毒液は事務局で準備

■対策例

レベル0
レベル1

基本的な感染対策の実践を呼びかけ



全体会実施

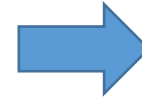
- ・通常開催。参加人数は制限しない

レベル2

基本的な感染対策等について要請

(例)

- ・ 基本的な感染対策(手洗い、マスクの着用、密の回避など)の徹底
- ・ 感染リスクが高まる「5つの場面」に注意
- ・ 感染者が多数確認されている地域等への外出は、慎重に
- ・ 会食は、マスク会食など感染リスクを下げる工夫を
- ・ 体調に違和感がある場合は、自宅で休養し、人との接触を回避
- ・ テレワーク・時差出勤の推進 など



全体会実施

- ・ 構成員や一堂に集まることは控え、Webを使用し、会長や座長、事務局等からの報告の様子を発信する。

レベル3

以下について要請

(例)

- ・ 感染者が多数確認されている地域等への外出の自粛
- ・ 地域・業種を限定した施設の使用制限、営業時間の短縮等(例:●●地域の飲食店、など)
- ・ テレワーク・時差出勤等の徹底

※ 状況に応じて、まん延防止等重点措置の適用や緊急事態宣言



全体会中止

- ・ 集会の中止
- ・ 部会報告等は後日書面で送付。

レベル4

令和3年度長浜米原しょうがい者自立支援協議会開催指標

②各部会等会議バージョン

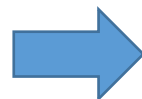
- ▶ コロナとのつきあい方滋賀プランを基に、専門部会の開催指標とする。
- ▶ 開催7日前時点でのステージで判断する。(当日までにステージが上がるのであればその時に※判断する)
- ▶ 日常から「滋賀らしい生活三方よし」を意識して生活。

※判断
会長・副会長・事務局で相談し決定

■対策例

レベル0
レベル1

基本的な感染対策の実践を呼びかけ



会議の実施

- ・十分な喚起を行ったうえで通常開催

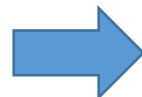
レベル2

基本的な感染対策等について要請

(例)

- ・ 基本的な感染対策(手洗い、マスクの着用、密の回避など)の徹底
- ・ 感染リスクが高まる「5つの場面」に注意
- ・ 感染者が多数確認されている地域等への外出は、慎重に
- ・ 会食は、マスク会食など感染リスクを下げる工夫を
- ・ 体調に違和感がある場合は、自宅で休養し、人との接触を回避
- ・ テレワーク・時差出勤の推進

など



会議の実施

- ・ 十分な喚起を行ったうえで開催。
- ・ 座席の間隔を十分開けて実施する。
- ・ 意見交換等の協議は通常通り行う。
- ・ 事前に協議事項の配布を行うなど短時間での会議を心掛ける

レベル3

以下について要請

(例)

- ・ 感染者が多数確認されている地域等への外出の自粛
- ・ 地域・業種を限定した施設の使用制限、営業時間の短縮等(例:●●地域の飲食店、など)
- ・ テレワーク・時差出勤等の徹底

※ 状況に応じて、まん延防止等重点措置の適用や緊急事態宣言



web会議の実施

- ・ 一堂に集まることは控え、ウェブを使用して協議や報告を行う。
- ・ 事前に協議事項の配布を行い意見を集約する

レベル4

新たなレベル分類の考え方

- 令和3年11月8日(月)第10回新型コロナウイルス感染症対策分科会にて示された。感染の状況を引き続き注視するが、医療ひっ迫の状況により重点を置いたものであり、都道府県ごとに感染状況や医療ひっ迫の状況等を評価するために分類されている。
- 各レベルで必要な対策を機動的に講じるタイミングについては、各都道府県が、予測ツールこれまで用いてきた様々な指標の双方を用いて総合的に判断する必要がある。

レベル (感染者ゼロレベル)	分類の考え方
レベル0) (感染者ゼロレベル)	○新規陽性者数ゼロが維持できている状況である。 ○大都市圏では感染が維持していても、都道府県によっては新規陽性者数がゼロの状況があり得る。
レベル1 (維持すべきレベル)	○安定的に一般医療が確保され、新型コロナウイルス感染症に対し医療が対応できている状況である。 ○このレベルを維持し、マスク着用など基本的な感染症対策やワクチン接種（必要な回数の接種）・医療体制の強化等により、教育や日常生活、社会経済活動の段階的な回復も可能になる。
レベル2 (警戒を強化すべきレベル)	○新規陽性者数の増加傾向がみられ、一般医療及び新型コロナウイルス感染症への医療の負荷が生じ始めているが、段階的に対応する病床を増やすことで医療が必要な人への適切な対応ができている状況である。 ○このレベルでは、短期間にレベル3に移行する可能性があることから、様々な指標を注視しつつ警戒を強化する必要がある。 ○特に大都市圏でレベル2になった場合には、地方部への感染拡大を抑制するための施策を準備する必要がある。
レベル3 (対策を強化すべきレベル)	○一般医療を相当制限しなければ、新型コロナウイルス感染症への医療の対応ができず、医療が必要な人への適切な対応ができなくなると判断された状況である。 ○レベル3に移行すると“強い対策”を講じる必要が出てくる。 ○このレベルでは、“強い対策”を講じるという意味においては、これまでのステージの考え方の概ね ステージⅢの最終局目及びステージ4に当たる 。
レベル4 (避けたいレベル)	○一般医療を大きく制限しても、コロナウイルス感染症への医療の対応できない状況である。 ○具体的には、このレベルでは、各自治体の最大確保病床数を超えた数の入院化必要となってくる。この段階になると集中治療室の再配分等も現場で検討せざる得なくなる。

各レベルの判断指標

■各レベルの判断については、参考指標も考慮し、総合的に判断を行う。判断にあたっては、専門家の意見も聴取

判断指標		レベル4 避けたいレベル	レベル3 対策を強化すべきレベル	レベル2 警戒を強化すべきレベル	レベル1 維持すべきレベル	レベル0 感染者ゼロレベル
医療体制等への負荷	① 最大確保病床の使用率	入院が必要な新型コロナウイルス感染症患者へ入院加療を提供できない状態	50%以上	—	—	—
	② 重症者用の最大確保病床の使用率	—	50%以上	—	—	—
	③ 人口10万人当たりの全療養者数	—	30人以上 (入院+自宅+宿泊)	10人以上 (入院+自宅+宿泊)	5人以上 (入院+自宅+宿泊)	5人未満 (入院+自宅+宿泊)
感染状況	④ 新規報告数	—	—	5人以上 /10万人/週	2人以上 /10万人/週	2人未満 /10万人/週
⑤ 予測ツールによる3週間後の病床数		—	最大確保病床数を超過	—	—	—

【参考指標】

・大阪府、京都府等の近隣府県の感染状況 ・直近1週間と先週1週間の比較 ・実効再生産数(Rt)
 ・入院率 ・感染経路不明割合 ・PCR等検査陽性率

感染拡大防止対策

■ 感染拡大防止対策は、本県の感染状況や国の基本的対処方針等を踏まえ、柔軟に対応。

なお、施設の使用制限等を行う場合においても、状況に応じて認証制度やワクチン・検査パッケージの適用による制限の緩和等を行う場合がある。

【対策移行のイメージ】

レベル	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1	レベル0
呼びかけ (※感染状況等に応じ、新型コロナウイルス等対策特別措置法に基づく要請等)	基本的な感染対策の実践				
	外出関連				
	感染状況などにあわせ、地域・対象施設などを検討				
	イベントの開催上限の目安等				
	感染状況などにあわせ、規模などを検討				
施設の使用制限(休業、時短等)	施設の使用制限(休業、時短等)				
	感染状況などにあわせ、対象の地域・業種などを検討				